10（黄③） これやこの　行くも帰るも　別れては　知るも知らぬも　逢坂の関　　蝉丸

意味:ここがあの有名な、都から東国へ行く人も京へ帰る人も、ここで別れては再び会い、知る人も知らない人も出会うという逢坂の関所なのだなぁ。

1

これやこの
ゆくもかへるも
わかれては
しるもしらぬも
あふさかのせき

読みます。

2

あ　し　わ　ゆ　こ

読みます。

3

歌の中の、対比されている言葉は何でしょう。

これやこの
ゆくもかへるも
わかれては
しるもしらぬも
あふさかのせき

この歌の中には対比されている言葉があります。
何でしょう。3組あります。

4

歌の中の、対比されている言葉は何でしょう。

これやこの
ゆくもかへるも
わかれては
しるもしらぬも
あふさかのせき

まずは、「ゆく」と「かへる」

5

歌の中の、対比されている言葉は何でしょう。

これやこの
ゆくもかへるも
わかれては
しるもしらぬも
あふさかのせき

次に、「しる」と「しらぬ」

6

歌の中の、対比されている言葉は何でしょう。

これやこの
ゆくもかへるも
わかれては
しるもしらぬも
あふさかのせき

そして、「わかれ」と「あふ」です。

7

この中にある地名は何でしょうか。

これやこの
ゆくもかへるも
わかれては
しるもしらぬも
逢坂（あふさか）の関

「逢坂の関」です。

8

逢坂の関は、京都と滋賀県の間にあります。山のなかに、細く道がありますね。ここに関所を設けていたわけです。

9

関所では、今でいう国境ゲートのように、行き来するには、特別な紹介状や手形が必要でした。

10 これやこの 行くも帰るも 別れては 知るも知らぬも 逢坂の関 逢坂の関で、どんな人たちが作者に見えていたでしょうか。	11 これやこの 行くも帰るも 別れては 知るも知らぬも 逢坂の関 逢坂の関で、どんな人たちが作者に見えていたでしょうか。 旅をする人 お見送りをする人 再会を喜ぶ人 など	12 蝉丸（せみまる）
作者には、この逢坂の関でどんな人たちが見えていたでしょうか。（関を超えて旅をする人、お見送りしに来た人、再び出会うことができた人など）	作者の蝉丸は、逢坂の関を見て、「これだよ、行く人も帰る人も、知る人も知らない人も、別れては逢ってゆく、これが逢坂の関だよ。」という意味でこの歌を作ったのですね。	作者の蝉丸です。蝉丸はこの逢坂の関付近に住んでいました。目が見えないといわれていましたが、その中でも、逢坂の関の悲喜こもごもをいろいろと感じて作ったのではないかと言われて
13	14	15
16	17	18